

平成 30 年 4 月 2 日

株式会社日建ハウジング 御中
代表取締役会長 眞保榮 薫 殿
取締役社長 新井 正樹 殿

白保リゾートホテル問題連絡協議会
会長 新里昌央
渉外担当 柳田裕行
石垣市白保 118

(仮称) 石垣島白保ホテルによる光害に係る公開質問および
船舶事故および漁業権侵害の危険性に対する対策の要請

前略 私たちは、石垣島白保の住民です。現在、御社が白保地域で計画しているホテル開発計画について、私たち周辺住民は、非常に問題視し、事業者の対応の不誠実さに強い憤りを感じ、同時に不信感を募らせています。つきましては、事業者である株式会社石垣島白保ホテル&リゾートの親会社であり、そもそも小田急電鉄グループの UDS 株式会社と当該開発計画をスタートさせた御社に、当該計画に関する質問をさせていただくとともに、光害によって船舶事故や漁業権侵害が引き起こされる可能性について指摘し、対策を要請いたします。

問題が八重山地域全体の観光に係ることであり、地元新聞だけでなく県内各メディアに取り上げられ、計画に反対する署名も 1 万人以上集まっている通り、沖縄県内でも非常に関心の高い事案であることから、質問と回答は公開させていただきますことをご理解ください。また、回答は、下記期限までに文書で提出していただくようお願いします。

草々

記

回答期限 平成 30 年 4 月 16 日

以上

<質問>

1. 説明資料ごとに、保安林の樹高が異なる件について

平成 28 年 8 月 23 日に白保公民館で行われた事業説明会で配布された資料では、保安林の樹高が 5 m となっています。しかし、平成 29 年 4 月 12 日及び 7 月 6 日に提示された説明資料では、保安林の樹高が 7 m となっています (添付のもの)。

- (1) なぜ、樹高が異なっているのか、理由を教えてください。
- (2) 保安林の正しい樹高の根拠となる資料 (計測値、日時、場所、責任者など) を示してください。
- (3) 樹高の計測地点を、添付の計画図上に示して、返送してください。
- (4) 開発計画区域に接する保安林の樹高は、計測地点以外でも同等の高さがありますか。

2. ウミガメの産卵・ふ化に対するホテルの光害対策について

平成 29 年 4 月 12 日にホテルの光害対策について住民が尋ねた質問に対して、当該計画のコンサルティング会社である株式会社シビルエンジニアリング（那覇市本社、松川 靖代表取締役）の蔵元氏から、添付の回答メール（17/04/26 付）をいただきました。石垣市に提出された開発計画に係る同意取り付け協議録にも記録されていますが、当協議会に所属する石垣島ウミガメ研究会のメンバーが見たところ、内容に不合理な点が散見されます。冒頭に「外灯などの固定された光は、親ガメよりも子ガメに対する影響が大きいと考えられることから」とありますが、外灯が親ガメより子ガメに強く影響するという説は聞き覚えがありません。加えて、「ホテル棟内部からの人工光は直接砂浜を照らさない」ことを強調したいように見受けられますが、産卵するために海から浜を目指してやってくる親ガメに対しては、海上を照らす人口光も影響を与えるので、浜を照らさないから産卵に影響がないとはいえません。計画では、海上を照らす客室の明かりについての対策は考慮されていません。そのうえで、以下に質問いたします。

（1）外灯などの固定された光は、親ガメよりも子ガメに対する影響が大きいと考えられる根拠となる文献等資料を示してください。

（2）「室内には遮蔽性のあるカーテンなどを設置し、海側へ人工光が漏れないようにするとともに、産卵、孵化の時期は、お客様にアナウンスのうえ、夜間は遮蔽していただくよう周知徹底をいたします。」とあります。光害対策を宿泊客任せにしている時点で、光害対策としては不十分であることは明らかですが、加えて言うと、ご存知とは思いますが石垣島でのウミガメの産卵は 4 月下旬から 9 月下旬です。ふ化は約 60 日後ですから、親ガメの産卵から子ガメのふ化が行われる期間は約 7 か月です。最大で 7 か月間、夜に客室の遮蔽性のあるカーテンを閉めることを毎晩宿泊客に依頼することになります。リゾートホテルとして非現実的な対策だと考えますが、この対策はウミガメの産卵・ふ化の期間中、間違いなく、実施する考えでしょうか。

3. 星空観察に対するホテルの光害について

石垣市は、竹富町とともに西表石垣国立公園の星空保護区（ダークスカイパーク）に暫定認定されたという報道が 4 月 2 日にありました。当該ホテル計画地は、西表石垣国立公園第二種特別区域に隣接しています。また、白保エリアは市街地からのアクセスも良く、新石垣空港は、原則 9 時以降には誘導灯を消灯するため、星空観察環境も良好で、白保は星空観察事業者が観察スポットとして活動しているエリアです。ホテル棟からの人口光が保安林の上空を明るく照らし出すことは避けようがないと考えます。

（1）星空保護区に対しての影響を避ける対策があれば、教えてください。

<対策の要請>

1. 光害による船舶事故の危険性への対策

白保海域では、夜間に電灯潜り漁がおこなわれています。当協議会のメンバーの漁師もおこなっています。複雑に入り組んだサンゴ礁地形で夜間に行われる漁なので、ライトで進行方向を照らしながら、サンゴをよけて細かく操船し、ポイントで停まって海に入り、潜って魚を突きます。しかし、この漁を行う場

合、陸から斜めに照らす光が操船の邪魔をします。ホテル棟の人工光が海上に広く届くと、反射によって海面が光り、海面近くに見えるサンゴが判別できなくなるのです。その結果、船がサンゴを傷つけたり、または船が座礁したり、破損したりする可能性が生じます。それを避けようとする、この海域での漁をあきらめ、他の海域へと漁場を移すしかなくなります。船舶事故が起きないように、事前に光害による危険性を指摘し、対策を講じるように要請いたします。それにもかかわらず対策が取られないまま光害による事故が起きた場合、貴社の責任は重大だと考えます。

2. 光害による漁業権侵害の可能性への対策

1. で述べたように、ホテルによる光害が電灯潜り漁に影響を及ぼす可能性が高いですが、その影響は船舶事故だけではなく、結果的に漁獲量の減少をもたらします。船舶の自由な航行が妨げられることによって、十分に漁ができないことに加えて、海上にホテル棟の人口光が届くようになると、夜、暗くなった海中で睡眠をとる魚の寝つきが悪くなったり、光が届く一帯を避けて睡眠をとるようになる可能性があります。そもそも、電灯潜り漁とは、夜に睡眠をとる魚を銜で突く漁業なので、魚の寝つきが悪くなったり、魚が夜間の人口光を避けてしまうことは、直接漁獲高の減少をもたらす、漁業権の侵害（漁業法第百四十三条）となります。この点については、当協議会のメンバーに漁業者も含まれるため、協議会として当該開発計画の主導者である御社に、ホテル棟の人口光が漁業権の侵害にならないように、光害対策を要請することにしました。漁業者はレジャーで漁を行っているわけではなく、生活の糧にしていますので、光害による影響が生じれば、その損害を請求せざるを得なくなると考えます。

以上

平成 30 年 4 月 5 日

株式会社日建ハウジング 御中
代表取締役会長 眞保榮 薫 殿
取締役社長 新井 正樹 殿

白保リゾートホテル問題連絡協議会
会長 新里昌央
渉外担当 柳田裕行
石垣市白保 118

平成 30 年 4 月 2 日提出公開質問および要請文書の添付資料

前略 下記資料が添付漏れしていました。あえてこちらから添付しなくても、ご承知のことと考えますが、念のためお送りいたします。よろしくご査収願います。

草々

記

(株) シビルエンジニアリング 蔵元一朗氏から NPO 夏花宛「ウミガメの光害対策」メール

以上

添付資料 1 4/26 返答メール 1

On 17/04/26 10:19, シビルエンジニアリング 蔵元一朗 wrote:

NPO 夏花 ■■さま

お世話になります。

(株) シビルエンジニアリング 蔵元です。

4/12 の説明会について、ご手配いただき ありがとうございます。

連絡が遅くなって申し訳ありません。

「ウミガメの光害対策」について質問がありましたので、本メールにて回答いたします。

外灯などの固定された光は、親ガメよりも子ガメに対する影響が大きいと考えられることから、外灯などは 580nm*2 付近の単波長で子ガメに対して走光性を示すという 500nm 以下の波長が無い低圧ナトリウム灯を採用する予定です。

(ウミガメは 3 色型の色覚で、ピーク波長は 450nm、502nm、562nm とされているとのこと。ウミガメが月明かりとして混乱させる青い光 (短波長) を省略する。)

ウミガメの産卵と孵化の時期は、外灯を消したり、光の方向を変えたりする対策を施します。

また、消せない光源については、光源の位置を下げたり、ターゲットエリアのみ向くように特別に設計したシールドをつけたりすることにより、直接砂浜に灯りが漏れないようにいたします。

「ヘッドライトなどの動く光は子ガメよりも親ガメへの影響が大きい」との質問がありました。

今回の計画では海と駐車場の間に建物を配置しており、また砂浜との間の保安林は保全することから、ヘッドライトなどの動く光が敷地内より砂浜に直接届くことは考えにくいと思われま

す。また、ホテル棟内部からの人工光は直接砂浜を照らさないよう保安林・建物の高さを工夫しております。さらにバルコニー及び軒の出を大きくし、客室内の光源位置を下げたりすることによって、海側へ人工光が漏れないよう工夫をいたします。

保安林が、台風などの自然災害により倒木などの被害を受けた場合についてもご懸念がありましたが、室内には遮蔽性のあるカーテンなどを設置し、海側へ人工光が漏れないようにするとともに、産卵、孵化の時期は、お客様にアナウンスのうえ、夜間は遮蔽していただくよう周知徹底をいたします。

- ・ 環境省が出している「ウミガメ保護ハンドブック」

http://www.env.go.jp/nature/kisho/guideline/SeaTurtle_Handbook.pdf

- ・ Philips の取組み

<http://www.usa.lighting.philips.com/products/product-highlights/turtle-friendly.html>

- ・ ウミガメ照明コンサルタント

<http://seaturtlelighting.net/>

以上、宜しくお願いいたします。